2008・平成20年

復習用現代語訳

隋の田僧亮と楊契丹は鄭法士と同じく画家として有名だった。法士は自分の絵が楊に及ばないことを自覚していたので、楊の弟子となって手本にすべき絵を教えてもらおうとした。しかし楊は彼に教えない。ある日法士を連れて朝廷に行き、宮殿や人々、およびその衣装や騎馬・馬車を指さして言った。「これが私の絵の手本です。あなたにはおわかりかな？」ここで法士はハッと気がつき、その後彼の画芸は向上した。

唐の韓幹は馬の絵師として宮廷に採用され皇帝の身近に仕える「供奉」となった。玄宗皇帝は彼に、陳閎の弟子となってその画風を学べと命令した。すると韓幹は皇帝に奏上した。「私めには自分の師匠がございます。陛下の厩舎におります飛黄と照夜、そして各地の名馬はすべて私めの師匠です。」皇帝はそのとおりであるとした。その後絵において韓幹は陳閎を抜き去った。

楊契丹と韓幹のような人物は真実（描く対象そのもの）を追求できる者と言えよう。あの（悟る前の）鄭法士のように真実の疑似物（手本とすべき絵）によって真実に近似することを求める者は、ますます真実から

遠ざかってしまう。今の学者は聖人の経典を探求していると主張しているが、経典自体がそもそもすでに聖人の真実ではない。（聖人の疑似物である）それなのに経典を捨てて経典の字句の解釈を追求しているのは、聖人の疑似物である経典のさらにそのまた疑似物への近似を追求する連中と言うべきだ。彼らは真実から最も離れているではないか！

訳注

1　5行目の「令」は「…に…させる」という使役の基本訳ではわかりにくいので、「詔：皇帝の命令」とあわせて「…に…と命令した」と訳した。

2　第三段落の論理構造は次の通り（8行目の「彼の（か）」を悟る前の鄭法士、最終行の「之（これ）」は「経」と解釈した。現代語訳してみてやっと整理できたが、解答中にはそんな余裕はまったくなく、限られた情報だけで正解にたどりついた。）

楊契丹・韓幹　　真を求める

悟る前の鄭法士　真の似[1]（画本）で似[2]を求める

　　似が2回でますます真から遠ざかる

今の学者　　真の似[1]（経）の似[2]（訓詁）に似[3]ることを求める

　　似が3回だから最も真から遠い

音読用書き下し文

隋の田・楊、鄭法士と倶に画を能くするを以て名あり。法士自ら芸の楊に如かざるを知るなり。乃ち楊に従ひて画本を求むるに楊之に告げず。一日法士を引きて朝堂に至り、指すに宮闕・衣冠・人馬・車乗を以てして、曰く、「此れ吾が画本なり。子之を知るや。」と。是に由りて法士悟りて芸進めり。

唐の韓幹馬を貌るを以て召され、入りて供奉たり。明皇詔して陳閎に従ひて画法を受けしめんとす。幹因りて奏すらく、「臣に自ら師有り。陛下の内厩の飛黄・照夜・五方の乗、皆臣の師なり。」と。帝之を然りとす。其の後幹の画遂に果たして閎を踰ゆ。

楊・韓の二子の若きは能く其の真を求むる者と謂ふべきなり。彼の似を以て似を求むる者は、則ち益遠し。今の学者、聖人の経を求むと曰ふと雖も、固より已に其の真に非ず。乃ち経を舎てて専ら訓詁を求むるは、則ち又た其の之に似たるに似るを求むる者なり。尤も遠からずや！

ステップ1　最初の2行を見る

傍線（ア）「与」の読みは「あずかる[14]」と「と[15]」なので、判明に時間がかかる。そこで（ア）の前の3字だけ読む。注1により、画家の田さんと楊さんだとわかる。

ステップ2　**最後の3行**を見る

オシリから　読むとわかるよ　お結論[m10]

うしらからながめていくと、9行目に「今」があるので、[今の世はまちがっている！]ルールによりただちにステップ3に移る。

ステップ3　**最終設問の選択肢**を見る

ステップ1と3で共通する言葉を探すと次のとおり。

1行目　画家[注1]

①　共通項なし

②　画家　今

③～⑤　右に同じ

①しか消えないので、消去を続けるためにステップ2にもどり、8・9・10行を見る。すると共通する言葉は次のとおり。

8・9・10行　真

②③⑤　真を求むる

④　共通項なし

ここで②③⑤を正解候補として退却。筆者の主張の一部は、画家について話し、「真を求むる」人がいて、今の学者はまちがっている、というもの。これで十分。これが大事。

問１（ア）〔漢〕「与」154と考えると、傍線アの前後が、「田さん・楊さんは鄭法士さん与と俱に…」となって論理が合うので正解は④。「俱に」は過去問を音読復習していれば必ず出てくる漢字。

問２A〔比較〕〔ンヤ〕「不如」は比較の公式38から「如かず」なので、②か④。④の末尾は「…んや」なので反語。傍線Aに反語56はないので正解は②。

問２B〔シテ〕〔対比〕「令」は使役10だから「令む」。だから「令従」と読んでいる④⑤は切れる。公式だと「ヲシテ…シム」なので①「従ひし陳閎をして」が正解だが、「従」を「従ひし陳閎」と読む点がキズ。第２行目で「鄭法士は従レ楊」となっているので[対比に注意！]すれば、２行目と５行目は次のような対比（ただし、Xはヨイ・Yはダメという対比でなく、対句のような対比）になっている。

２行目　鄭法士は　従レ楊　求二画本一

５行目　韓幹は　従二陳閎一受二画法一

そこで「従二陳閎一」としている③が正解。

この問は落としてもしかたがあるまい。というのは、Bの「令」の下に画家の「韓幹（かんかん）」が省略されており、「韓幹をして…受けしめんとす」が本来の形だったからだ。「韓幹」を補った文は次のとおり。

明皇　詔（みことのりシテ）　令下（しメントス）　韓幹（かんかんヲシテ）　従二（したがヒ）　陳閎一（ちんくわうニ）　受中（うケ）　画法上（がほうヲ）

でも、間違ったからといって嘆く勿（なか）れ。こんな傍線部こそ音読復習して次の戦闘のためのパワーにしよう。特に、上・中・下のような訓点の文はそんなにないからここは練習のしがいあり。

早ロで　言えば身になる　傍線部 m27

☆明皇　詔（みことのりシテ）　令下（しメントス）　従二（したがヒテ）　陳閎一（ちんくわうニ）　受中（うケ）　画法上（がほうヲ）

問3〔対比〕〔主張〕

また対比の問題。画本（絵の手本）の中身は、選択肢では「書物」、「手本とすべき絵」、「描く対象そのもの」、あるいは「描く対象の種類」。第一段落で対比されているのは鄭法士が求めようとした(1)画本と楊契丹が鄭法士に示した(2)画本だ。

これを整理すると次の通り。

(1)画本＝鄭法士が楊契丹に服従して求めようとした絵の手本

(2)画本＝宮殿・衣冠・人馬2〜3行目＝描く対象

同様に、第二段落で対比されているのは、韓幹さんと陳閎さんであり、6行目で「二匹の駿馬[注8]・各地の馬たち[注9]皆臣(みなしん)の教(わたくし)師なり」とあるので、次のように整理できる。

陳閎：陳閎の「画法」＝陳閎に服従して受ける絵の手本
＝(1)画本

韓幹：いろいろな馬が臣ノ師なり＝描く対象が私の先生です
＝(2)画本

以上の整理を組み合わせると②か⑤。②「描くべき対象の種類」が手本か？はたまた⑤「描くべき対象そのもの」が手本か？

ここで筆者の主張を思い出すと、[画家について話し、「真を求むる」人がいて、今の学者はまちがっている]だったね。あらためて検討すると、[最初と最後で　筆者は主張mg]の大原則から、最後の段落の最初の部分Cを見ると、「楊・韓…は…真を求むる者と謂ふべきなり」とある。「真」は「1字の漢字は熟語で訳せ。熟語の訳で正解探せ！」174により「真実」だから、「真実そのもの」となって出題者の意図する正解は⑤だ。

問4〔熟〕　問3で苦労した人へのごほうび問題。前問の正解が⑤「描くべき対象そのもの」であり、それが「真実」なので正解は「対象をよく観察してその実体を写」す④。

問5〔対比〕〔今〕　またタイヒだ。最終段落で「真」と「似」が対比されていることはおぼろげながらわかる。熟語化しておくと「真実」と「疑似・近似」の対比だが、「真」と「似」の内容は選択肢を参考にしないとよくわからなかったので時間がかかった。

まず[今の世はまちがっている！]により「今の学者…」から{ヨシ＝真}、{ダメ＝似}で振り分けた。今の学者はダメだから似、聖人はヨシだから真。続いて、「ダメな今の学者」が求める「聖人の経」および経の注釈である「訓詁注11」については次のように整理できた。

今の学者＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝似　ダメ！

聖人＝真　ヨシ！

聖人の経＝真の似　ヨシ＋ダメ

聖人の経の訓詁＝真の似の似　ヨシ＋ダメ＋ダメ

最終行だから、訓詁を求める者は真からもっとも遠からずや（遠いではないか！詠嘆72）

そこで正解は「経＝真の似　訓詁＝似の似」とする②。論文練習をしていないと苦しかったと思う。私も少し混乱したが、パズルと割り切ればあとは頭に汗をかくだけだ。「今の学者…」とくれば必ず「今＝ダメ」だからこのような通説批判・自説主張型の論文の復習は論理力がつくよ。

問６〔主張〕　最初の三つのステップでつかんだ筆者の主張の一部は、[画家について話し、「真を求むる」人がいて、今の学者はまちがっている]というもの。そして選択肢の正解候補は②③⑤だったね。今あらためて検討すると次のとおり。

最後の段落の最初で「真を求むる者」をとりあげ、次の行で「今の学者」を「似るを求むる者なり…（真実から）もっとも遠いではないか！」と批判しているので、次が結論。

ヨシ　「真を求むる者」

ダメ　「今の学者」　理由：「似るを求むる者」だから

次に、絵画がテーマか、学問がテーマかを検討すると、「今の学者」を非難し、「今の画家」を非難しているわけではないので、学問がテーマ。そこで正解は『真を求むる者』…と『今の学者』…を対比的に論じ…学問における真とは何か…」を問う⑤。

念のため他の選択肢のキズは次のとおり。

①「宮闕・衣冠・人馬…五方の乗」は描く対象そのものなので「真」。「訓詁」は問５の作業により「似の似」。選択肢の文章に代入すると、『真＝ヨシ』を『似の似＝ダメのダメ』の比喩として挙げる」となるのでここがキズ。②にひっかかった人もいるかもしれないが、漢

文で「聖人」といえば儒教の祖である「孔子さま」か、孔子が尊敬した昔の王様堯（ぎょう）・舜（しゅん）・禹（う）と決まっているので、鄭さんでも陳さんでもない。③は「『真を求むる』方法は多様」の「多様」がキズ。画家の逸話（いつわ）を記した第一段落でも第二段落でも「真を求むる」方法は、問３の作業によれば、ひたすら「描く対象そのもの」を「絵の手本」とするだけ。④は「一つの対象しか『師』にできない」の「対象」がヒッカケ。６行目で韓幹は、馬という一つの種類しか『師』にしていないが、フライングイエロー（飛黄）やシャイニングナイト（照夜）あるいは各地の馬といった多くの対象を『師』としている。